



公益社団法人 日本山岳会

宮崎支部報

第86号



第37回宮崎ウェストン祭 11月3日(日)

日高研二

1 式典

第37回目となる「宮崎ウェストン祭」が11月3日(文化の日)、高千穂町との共催で、九州の秀峰「祖母山」・「阿蘇山」・「久住山」を一望できる五ヶ所高原三秀台において開催された。

今回は開催前に台風21号が発生し、九州直撃の予報もなされたことから大変心配されたが、当日は雲ひとつない秋晴れの素晴らしい天候に恵まれ無事開催することができた。まさに天に感謝である。因みに11月3日は、過去のデータから晴天率が高いようであり、次回も晴天での開催ができるよう願う。

式典は、午後4時から県内外80余名の参加のもと、地元小学校児童による点鐘に始まり、ウェストン師・遭難者等への黙祷、小学校児童・当支部会員による献花、主催者(高千穂町・日本山岳会宮崎支部)挨拶、来賓(高千穂町議会議長)挨拶と進み、その後「ウェストン師に捧ぐ」詩の朗読(当支部)、次にウェストン祭の歌(指揮:当支部)を参加者全員で声高らかに合唱し、児童への記念品贈呈後、田上五ヶ所公民館長の万歳三唱で終了した。

さて、「日本近代登山の父」として知られるイギリス人宣教師ウォルター・ウェストン師。日本アルプスに登られる1年前、明治23年11月6日、祖母山に登頂されたことが、旧矢津田家の日記で判明、それを機にウェストン

師顕彰の機運が高まり、1967年(昭和42年)地元の北稜山岳会が「ウェストン師顕彰祭」を始め、途中いったんブランクがあったが、1985年(昭和60年)宮崎支部の設立に合わせて、高千穂町との共催で第1回「宮崎ウェストン祭」が開催され、引き継がれ今日に至っている。

宮崎ウェストン祭は、ウェストン師の遺徳を偲び、山岳遭難者に哀悼の意を表して登山の安全を祈ることを目的に開催しているが、今年で40年目となる。また、ウェストン師が祖母山に登頂されて今年が135年目となるが、今回こうして多くの方々の参加を得て宮崎ウェストン祭を開催し顕彰できたことは誠に意義深いものがある。

日本山岳会宮崎支部として、宮崎ウェストン祭は重要なイベントであり、先達の方々の思いのこもったウェストン祭がさらに盛り上がるよう関係の方々や取り組み、さらにこの地域の活性化や高千穂町の発展の一助となればと願っている

<参加者21名>本部山行委員会柳田泰則・清家順子・谷口敏子・多田登美子・服部澄子・橋口三枝子・竹田裕見子・蔵屋とよ・風間恭子・荒武八起・日高研二・武田芳雄・多田周廣・服部岩男・平田五男・山上章二、荒武達郎、会員外4名 <北九州支部5名><熊本支部 10名><東九州支部 11名>



地元児童による点鐘



高千穂町長
甲斐宗之氏



高千穂町町議会議長
坂元弘明氏



宮崎支部長
日高研二氏



指揮 谷口会員



詩朗読 蔵屋会員



五ヶ所高原から望む祖母山



地元児童 献花



三秀台に集う九州各支部の皆さん

2 地元との交流会

式典終了後、会場を五ヶ所野菜集出荷場に移して、午後6時から地元「田原地区村おこし協議会」主催で交流会が開催された。まず神事で安全登山祈願。主催者(吉水会長)等挨拶後、アトラクションではステージで伝統芸能の神楽や歌唱、ギター演奏(熊本支部)、本陣太鼓、そして今年新婚ご夫妻点火による巨大キャンプファイヤーと続き、閉会予定時刻をオーバーする盛り上がりで終了した。地元の方に準備頂いたうどんやカップ焼酎など頂きながら多くの参加者との交流も深められ有意義な時間を共有することができた。地元の方々から心から感謝・感謝である。

3 九州各支部との懇親会

交流会終了後、九州各支部との懇親会を、宿泊所となる「ひめゆりセンター」で開催。始めに各支部情報発信の場を設け意見交換した後、歓談。明朝登山隊の出発が早いこともあり、来年度の参加をお願いし1時間ほどでお開きとした。



熊本支部中村氏の演奏



新婚さんによるキャンプファイヤー点火



各支部の情報発信ともなった懇親会



【ウエストン祭記念山行】

祖母山 11月4日(月)

橋口三枝子

五ヶ所高原ひめゆりセンターの朝はさすがに冷たいが素晴らしい天気恵まれ最高の登山日和であった。各支部それぞれの行動となる。宮崎支部は祖母山登山である。今回は本部山行委員の柳田泰則氏も参加いただいた。北谷登山口より風穴コースから山頂へ、下りは9合目山小屋経由の周回コースである。7時50分出発、すぐに渡渉地点。水量が多いと水に浸かって渡ることになるが最近できたのか丸太のりっぱな橋がかかっていて安心して渡ることが出来た。谷沿いの小さな水場を数回通り、ハシゴを登ると奥行きが20mほどあるという風穴に着く。冬は暖かく、夏は氷が張るほど気温が下がるため昔は夏は氷室(ひむろ)として冬は蚕の貯蔵などとして利用されたと言われる。

風穴コースは急勾配で危険箇所も多い。ハシゴやロープ、木、岩をつかみ慎重に登って行く。紅葉の季節だが今年は色味が少ない紅葉しないまま葉っぱを落としているように見える。これからなのか？それとも長雨や猛暑の異常気象が影響しているのだろうか。それでも時折、赤や黄色のモミジやカエデの彩が美しい。長いアルミのハシゴを登り、少し行くと谷間に陽に照らされた素晴らしい五色の模様を見ることができた。山頂近くで降りてくる若者はこれから阿蘇に向かって、あと一座登ると言い急ぎ下山して行った。こちらはへトへトになりながら登っているのに改めて若者のパワーに圧倒される。二面岩と呼ばれる絶景スポットにも少し怖い・・・立って高度感を味わう。

11時05分山頂着。少し霞んでいたが北東に障子尾



これまでは増水すると大変だったが丸太の橋が設置され安心して渡れるようになった



ハシゴ、ロープ場が多く慎重に登って行く

根、東に傾山、南に古祖母山等々の360度のパノラマを堪能する。花の少ないこの時期アキリンドウが目惹いた。

祖母山は宮崎県では最高峰(1756m)日本百名山の一つとなっている。山頂の祠には祖母岳明神として豊玉姫が祀られている。豊玉姫は初代天皇の祖母にあたることから祖母山の名前の由来となったとされる日本の神話にまつわる霊山となっている。

12時下山開始、山頂直下は急な傾斜でロープを使いながら慎重に下りる。20分ほどで9合目の山小屋、無人の山小屋、縦走者の宿泊として重宝されている。ただ一角に食器等拭いたと思われる紙が山積みされているのには驚き残念であった。2ヶ所の長い登り返しが疲れた体に応えるが千間平の展望から眺める紅葉と遠くの久住の山並みを望み疲れをとり、あとひと踏ん張り頑張って15時15分に全員無事に登山口に着いた。

ひめゆりセンターに戻り本部の柳田氏とはここでお別れとなる。すっかり仲間として楽しい時間を過ごさせてもらったことに感謝。

<参加者11名>本部山行委員柳田泰則・橋口三枝子・竹田裕見子・蔵屋とよ・風間恭子・荒武八起・日高研二・武田芳雄・平田五男・会員外:興梧・高山

<コースタイム>北谷登山口7:50~風穴9:13~ハシゴ場10:30~山頂11:05/12:00~9合目山小屋12:20~国観峠13:00~3県境13:38~展望台14:05~北谷登山口15:15~ひめゆりセンター15:50~ヤマダ電機駐車場18:50



9合目山小屋

[10月定例山行] 藺牟田池外輪山(A班) 10月13日(日)

山上章二

先月宮崎では珍しく雨が多く、その影響で定例山行が中止となり2ヶ月ぶりの山行となった。隣県の薩摩川内市の藺牟田池(いむたいけ)へ向けマイクロバスで6時35分清武ナフコ駐車場出発。

藺牟田池は、薩摩川内市祁答院(けどういん)町の山奥にあり周囲およそ4kmの円形の湖で、2005年11月8日ラムサール条約登録湿地となっている。藺牟田池を中心とする一帯は、環境省のレッドリストで絶滅危惧種ⅠA類に指定されるベッコウトンボの国内唯一の生息地保護区に指定されるなど、希少で多様な生き物が生息している。外輪山は池を取り囲む周囲7キロで愛宕山、舟見岳、交葛(こかざら)山、竜石(たついし)、山王嶽、片城(かたしろ)山、飯盛山の7岳で構成されている。道中、休憩を挟みながら午前10時、藺牟田池駐車場に到着。今回、特別参加いただいた宮崎県環境保全アドバイザーの猪崎悦子氏から、池で優雅に泳ぐ茶色い頭に白いラインのヒドリガモや地味な色のオカヨシガモ、落葉高木のメタセコイヤ等について解説いただきながら、湖畔の遊歩道を経由し外輪山登山道から山王嶽を目指す。

遊歩道を約1時間歩いたところで、夫婦竜神の女竜が石になった悲しい伝説の残る竜石(高さ約20メートルの巨石)と山王嶽の分岐で2グループに分かれた。

山王嶽の途中の露岩で、眼下の湖面に映える山影を見ながらひと休み。山王嶽に着くと別のパーティーの方々が食事中で挨拶しながら山頂を通過。昼過ぎに片

城山を経由し小さな草地の鞍部で遅めの昼食を済ませ一旦下山。暫く池の遊歩道を歩き飯盛山を目指すも時間の関係で断念。14時に出発地点の駐車場へ到着し、竜石との分岐で別れた会員と笑顔で合流。深い緑の山々と濃紺の池、眺望も素晴らしく印象深い山行となった。

帰路、藺牟田池から程近く山々に囲まれた、元世界一の郷水車に立ち寄った。大きさは直径13.2メートル。また、始良市(あいらし)の日本一大きい楠の木「蒲生(がもう)の大クス」を見るため蒲生八幡神社へ。樹齢約1,600年、根周り33.5m、高さ約30mと日本で一番大きな楠。初めて見る大楠は根元から他の植物が絡みついて共生し、地にどっしりと根を張った姿は神秘的で不思議な感覚を覚えた。寄り道もしたが、出発地点の集合場所へ18時無事到着。自然の美しさや力強さを感じた中秋の一日となった。マイクロバスを運転していただいた荒武(達)会員、石井氏に感謝申し上げる。

<参加者15名>清家順子・服部澄子・橋口三枝子・蔵屋とよ・荒武八起・日高研二・武田芳雄・櫻木勉・服部岩雄・四宮林三・荒武達朗・山上章二・(会員外)猪崎・石井・小畑

<コースタイム>ナフコ清武店駐車場6:35～隼人西インター9:11～始良インター9:22～藺牟田池駐車場9:50/10:15～山王嶽登山口11:15/11:20～山王嶽11:45～片城山12:25～鞍部(昼食)12:55 / 13:20～藺牟田池駐車場14:00～郷水車14:10/14:20～蒲生八幡神社14:40/15:07～道の駅都城17:15～ナフコ清武店駐車場18:00



遊歩道とあるが岩場もあり慎重に下る



出発前に藺牟田池をバックに

藺牟田池散策コース(B班) 10月13日(日)

清家順子

ゆったり歩きメンバーは竜石登山口で別れ竜石山に向かった。低山だが(460m)歩き始めると急こう配である。木漏れ日の中を櫻木さん服部さんご夫妻と私の4人歩き。登り15分で頂上。形の美しい大きな岩がそびえ山の名前を納得。そこからの眺望は対岸に美しい姿の飯盛山(藺牟田富士)眼下には藺牟田池、小さな祠も有り安全

祈願。少し休んで下山、急な坂は下りが大変10分で登山口へ着く。四宮さん特別参加の猪崎悦子さんと合流、池廻りを歩く。涼しい秋風に気持ちも爽やか、途中池を眺める素敵なバンガローで昼食。休憩後池廻り、この道はハイキングコース、レンタル自転車に乗る親子家族にも出会う。秋の山野草が可愛い花を付けている。

植物に詳しい猪崎さんに話を聞きながら途中で健脚組と合流する。池の周りには豪邸や山荘の廃墟 眺めの良い山稜には閉店したホテルも有り日本の栄華衰退を感じる。又、元気な日本に・・・

今回の山歩きでは 山野草・野鳥に詳しい猪崎さんの参加で野の花や野鳥の名前を沢山聞くことができた。ミズヒキ(赤白黄)が木漏れ日に輝いている。ゲンノシヨ

ウコ・ムサシアブミ・ヤブミヨウガ・ヤマハッカ・オバユリの実・マツカゼソウ・イタドリの花(春の赤い茎からは想像もつかない)大きく可愛い花 ヨメナ・ミゾソバ(コンペイトウ)・萩の花・キツネノマゴ・カタバミ・ヒヨドリバナ他沢山。湖畔にはイグサの林があり湖面にはムサゴ・ハクチョウ・カモ等。季節外れの桜が咲きキンモクセイの香りのなか春と秋の出会いだった。

第8回 宮崎市山岳協会主催 山の日イベント in 家一郷山 11月23日(土)

荒武 八起

第8回宮崎市山岳協会主催の山の日イベントは11月23日に家一郷山で開催された。同イベントは、例年8月11日に行っているが、過去に軽度の熱中症が発生したことから今回は変則的に時期をずらしての開催であった。宮崎市山岳協会(市山協)は、日本山岳会宮崎支部を含む宮崎市内の9つの山の会からなる約300名の組織である。

当日は晴天に恵まれ、絶好の登山日和となった。9時からの開会式では50余名の参加者を前に会長から山の日の意義、各山の会が垣根を越えて様々な取り組みに協力している事に対する謝意が述べられた。続いてこの一年間において同協会事業に貢献された二名に対して会長から感謝状が贈られた。その後、全国山の日協議会より拝借した横断幕を前に集合写真に納まり、柔軟体操をして3班に分かれて入山した。

舞台となった家一郷山は標高437mの低山ながら椎・檜・イスの木・タブなどの巨木が林立し、林床には南国特有の植物が繁茂する自然豊かな原生林である。

「遊びと学びの森」として宮崎市も力を入れ自然観察歩道として整備されている。

途中にある展望所は、眼前の雑木により見通しが良くなかったが、それらが伐採され北から西にかけての展望が開けた。そこから30分ほどで山頂である。

ここも以前は天然林で覆われ、視界が無かったが、木々が伐採され北西から南にかけて大きく展望が得られるようになった。素晴らしい景色に感動する反面、この伐採が台風などで自然に影響しないか少し気になった。しかし、森林の専門家の判断でなされた事なので素人の取り越し苦労であろう。下山すると待機組のメンバーがぜんざいを用意して待っておられた。疲れた体にとても美味しかった。

このイベントについては全国山の日協議会へ報告した。なお、宮崎支部単独の山の日イベントは前号の支部報で報告したように8月11日に実施した。

<参加者>宮崎支部13名>多田登美子・服部澄子・橋口三枝子・川越怜奈・柏田英子・荒武八起・日高研二・武田芳雄・多田周廣・櫻木勉・服部岩男・四宮林三・川越政則(総数52名)

<コースタイム>開会式9:00登山開始9:30~展望所10:10~家一郷山山頂10:50~自然観察道東口12:45~登山口13:00



小八重さん山本さんへ
感謝状が授与された



双石山、塩鶴・小谷登山道整備作業 10月12日(土)

前原満之

我々も所属する宮崎市山岳協会の登山道整備作業へ参加した。塩鶴登山口では主に草刈り作業が行われたが、私達は小谷登山口での登山道整備であった。まず階段に使う木材やそれを止める杭などを持って上がり、事前にピンクのテープが貼ってあった作業箇所に置いていった。雨で荒れた登山道を、それぞれの場所、2~3人でヤマクワ等を使い整備していく。中には大きいビニールパイプを埋め込んで水を流すようにする所もあった。滑りやすい所や水はけの悪い所が次々に整備されていき、みんなの力を合わせればこんなにもできるものだった。

双石山は最近登山客も増え、事故も発生しているので、今回の作業が、皆さんの安全な登山に少しでも役

立ったらいいと思う。キバナノホトギスの盗掘が散見され、一部のマナーの悪い登山客に心を痛めている。作業は8時から約2時間半で終わった。参加者は40名(当支部11名)。そして今回は市の森林水産課からも3名の参加があり、川越さん達の献身的な働きかけが行政を動かしたのではないだろうか。翌13日には宮崎市の清山市長が小谷登山口から登山されたとの報告を聞いた。その際、登山道整備や、年末の清掃作業の取り組み等を市長に報告し、市長からは、登山道整備に対して感謝され、また清掃作業で大量のゴミを回収したことについて、大変驚かれていたとの事であった。

〈参加者〉 服部澄子・栗林淳子・橋口三枝子・前原満之・荒武八起・日高研二・武田芳雄・多田周廣・服部岩男・川越政則・山上章二



大きな石も力を合わせて



作業を終えて お疲れさまでした

【自然保護委員会】

清掃登山・小谷登山口周辺清掃作業&双石山登山 12月7日(土)

前原満之

【清掃作業】 8時~9時20分(1時間20分)

今年も、宮崎市山岳協会の協力を受け、清掃作業を実施した。今回の作業は、小谷登山口から約500m先の管理番号4とその先の5(電柱番号赤木分18~19と赤木分29~30)を主に実施した(管理番号5は昨年度も実施)。今回、受付を小谷登山口ではなく、4としたため、小谷登山口に「清掃場所500m先です」の看板を立てた。そのため先着の方には歩いて現地に向かわれるようお願いした。今回は武田さんに軽トラ提供をお

願いし、四宮さんと二人で管理番号1~3をゴミの回収しながら上がってもらった。フレコンバッグ(集草袋)は、山岳協会での準備に加え今年は前原も準備した。回収したゴミは、49袋(可燃ゴミ35、不燃ゴミ14)と袋に入らないタイヤ3本、鉄棒、マット等である。現場に置いた環境美化ボランティア袋は後日、市環境業務課にて回収し、袋に入らない不燃ゴミは県土木事務所にクリーンロードみやざき推進事業として回収してもらった。

※ 赤木分〇〇というのは、近くに立つ電柱のNTTの電柱番号で場所の特定に有効である。



【登山】 10時5分～13時10分(3時間5分)

今年は、清掃作業だけでなく登山も確実に実施しようと、呼び掛けたが参加者は4名で、第2展望台までとした。磐窟(いわや)神社はきれいに修復されている。登山道は今夏の豪雨で各所に影響が出ており、天狗岩への登りも落石で元の登山道は通れず、左へ迂回となっている。その一方で、天狗岩は相変わらずの奇岩ぶりを誇っている。空池のチョックストーンをくぐり尾根コースを登る。ここも落石の跡がある。大岩は、目の前の樹木が延びて眼下の展望が遮られている。荒武さんが貝の化石(楕円形の中に何本も線が見える)を見せてくれる。第2展望所に着き、昼食後、谷コースを下る。



ハシゴは落石により壊れロープで降りる

三段梯子は損傷とのことだが、チェックもあり通ることに。落石で一番上の梯子がグニャッと曲がっているが、ロープで降りれるようになっている。磐窟神社と三段梯子分岐(規制のロープあり)に着く直前のイヌノキの古木はいつ見ても素晴らしい。しばしながめる。久しぶりの第2展望所まで登ったが、前述したように豪雨被害の大きさを実感した登山であった。

参加者34名(当支部11名) アンダーラインが登山参加者
清家順子・多田登美子・服部澄子・前原満之・荒武八起・武田芳雄・多田周廣 櫻木勉・弓削達雄・四宮林三・川越政則



イヌノキ



第2展望所

【グループ山行】 高隈山系 御岳9月28日(土)

蔵屋 とよ

9月の定例山行が台風をはじめとする雨天により中止となる中、グループ山行として参加した。高隈山系の御岳、別名を権現岳(ごんげんだけ)とも言い存在感・風格のある山容と評される。宮崎を6時40分頃出発、都城ICから鹿屋串良JCTを経由して御岳登山口に9時15分到着。駐車場はすでに満杯でギリギリ駐車。薄曇りで山行にはちょうど良い気温。簡易トイレもあり体調を確認し9時30分テレビ塔下5合目登山口を出発、右手眼下には鹿屋市が経営する鳴之尾(めいのお)牧場を見下ろす。緑の牧場にオレンジ色の厩舎の屋根が引き立っている。歩き始めから広い山道のわきに早速タカマホトギスが次々と出迎えてくれ期待が膨らむ。ただ、登りはじめから苔に覆われたコンクリートの階段が延々と続き、急坂を上ること30分でテレビ塔(忠兵衛岳)に着く。ようやく呼吸が整った頃、これから目指す御岳を見上げると、

これを登るのかとやや不安になる。一旦岩場を下り再び登る。ここからの登りは数カ所の鎖、ロープ、また張り出した木を頼りに上を目指す。急登の最中もタカマホトギスの群生が次々と迎え励ましてくれる。時にツチトリモチの赤い群生もある。8合目過ぎに水場とベンチ、9合目もベンチ、間もなくスキの合間をくぐり11時30分、御岳山頂(1181m)に到着。既に20数人が眺望を楽しんでいた。数分間は志布志湾、錦江湾、桜島、開聞岳と四方を見渡せたが間もなくガスで真っ白になった。それでも秋の風が心地よく、山のおにぎりは美味しい。

12時40分下山開始。登りもかなりの運動だったが下りもしかり、鎖やロープの岩場を慎重に下り14時10分登山口到着。都城道の駅に寄り道をして帰路につく。

<参加者3名> 橋口三枝子・蔵屋とよ・日高研二

<コースタイム> 花山手タイヨ-6:40~都城IC~鹿屋串JCT~御岳山登山口9:30~テレビ塔10:04~山頂11:40/12:30~登山口14:10~花山手タイヨ-17:50



タカマホトギス



ツルインドウ

グループ山行兼霧立越古道調査

荒武 八起

全国山岳古道120のプロジェクト(PJ)事業の中で宮崎支部は、「薩摩街道高岡筋」「飢肥街道」「椎葉の古道のうち霧立越」の3ルートを担当することになり調査を進めてきた。前2者については、古道として不明な部分が多く含まれるであろうとの推測から本PJの開始当初から取り組んできた。両古道とも二十数回にわたり、古地図を頼りにGPSをも駆使し、藪をかき分け、地元の方々から情報を聴取しながらの調査であった。不明な部分もあり、古道を完全に通して歩くことはできなかったが、可能な限りの状況を本部の古道PJに報告した。

最後の霧立越については、何回か歩いた経験もあるし、ハイキングコースとして整備されているのでGPSデータと写真さえ揃えば良いと、たかをくくっていた。ところが2022年9月の台風14号に伴う大雨は各地に甚大な被害をもたらした。その中で霧立越への林道も大規模な土砂崩れが何か所も発生した。その大雨からすでに2年を経過したが、修復は難航しており、椎葉松木登山口への林道は復旧のメドが立っていない。幸いにも待ちに待った五ヶ瀬側の登山口への林道については、この11月によりやく通行が可能になった。

そこで、満を持して有志で出かけた。一日目は熊本県山都町馬見原を地元ガイドの案内で1時間ほど見学した。馬見原は霧立越の北の起点であり、日向往還・馬見原往還・江代往還・高森往還などが交わることから物資集積の拠点となり宿場町としても栄えていた。馬は常時300頭近くおり、まさに馬を見る原であったという。歌人若山牧水はここを訪れた印象を「馬見原はシャレタ町ナリ」と書き残している。この日はやまめの里に泊まった。山の幸たつぷりのご馳走をいただきアルコールも体にいきわたる頃、オーナーである秋本治氏にご登壇いただき様々な話を聞かせていただいた。氏が九州ブナ圏五ヶ瀬構想という大きな枠組みの中で都市と山村の正しい姿の交流を目指して日々活動されている姿に深い感銘を受けた。



やまめの里 秋本治氏を囲んで

二日目は、A班4名の方々には鶴富屋敷・巖島神社・上椎葉ダム・柳田国男記念碑などの写真撮影および取材を行っていただいた。我々5名のB班はゴボウ畠登山口から扇山小屋を目指した。あいにくの霧で遠景の写真は撮れなかったが、霧に浮かぶ樹木や林床の苔類の美しさにシャッターを切り続けた。約6時間で扇山に着き、一息入れた後、橋口さんと松木登山口を往復しGPSデータをとった。久しぶりの山小屋泊まりは寝るのが惜しいほど楽しかった。

三日目は、山小屋を出る前に武田さんと扇山山頂を往復した後、昨日とは逆にゴボウ畠に向けて歩いた。この日は前日より深い霧で途中から小雨となり、遠くの山々の写真撮影は不発に終わった。白岩岩峰や扇山からの雄大な写真がないと格好がつかないので、いずれ条件の良い日に再挑戦するつもりでいる。

後日談：霧のため十分な写真が撮れなかったので、12月3日と4日にかけてソロキャンプしてきた。今回は内の八重登山口から扇山を目指した。先日の初雪が残っており、結構楽しかった。幸いにも好天に恵まれ、ほぼ360度の景色を堪能した。まだ完全ではないが、年内にできるだけの事はした思いでいる。

<参加者9名> A班:谷口敏子・多田登美子・谷口菊美・多田周廣
B班:橋口三枝子・蔵屋とよ・荒武八起・日高研二・武田芳雄

<コースタイム> 二日且:宮崎10:00発～馬見原 14:00～鞍岡
15:50～波帰・やまめの里16:30(泊) 二日且:A班:やまめの里発
9:00～椎葉周辺取材～17:30宮崎着 B班:やまめの里発7:50～
ゴボウ畠手前のミステリーゾーン8:15/8:35～ゴボウ畠登山口
8:36/8:40～白岩峠9:20/9:35～白岩山岩峰10:05/10:20～水呑
の頭(白岩山)11:10～昼食12:20/12:45～見晴らし岩12:50～馬
つなぎ場13:10～二本ブナ13:35～平家ブナ13:45～扇山山小屋
14:55/15:15～(松木登山口往復)～山小屋18:10 三日且:山小屋
8:00～(扇山往復)～山小屋9:00/発9:15～ゴボウ畠登山口14:50
～宮崎着19:00



白岩山山頂

霧のなかの二本ブナ



扇山山小屋



私の短歌 10月3日(木)

支部では毎月第一木曜日に行われる登山研究会で会員のミニ講和を行っている。内容は様々だが主に健康講和や登山技術についてである。

さて今回は短歌について谷口敏子会員の講和をしていただいた。資料は宮崎支部報に記載された会員の書いた山行の原稿からである。まず宮崎は短歌県と言われるほど短歌を親しむ人が多いと説明を聞く。宮崎支部を発足された大谷優さんも歌人であった。その影響なのか我が支部にも多くの人が短歌、俳句をされている。その中で敏子さんは今もいろいろ活躍されている一人である。

5, 7, 5, 7, 7の31音からなる歌、各原稿の中からそれぞれに歌を詠んでいただいた。「文字を繋げて誰にでもできるのですよ」と話される。感性豊かな敏子さんならでの作品には感心するばかり。私の文章からも作って頂いて、あの文字からこんな素敵な歌ができるのだと思うとそれは嬉しくて感動だ。とても私にはできそうもないが、出来上がった作品を見ると私も下手な歌でも考えてみたいと思うが・・・

大好評で終えたミニ講和だった。また是非続編を次の支部報発行の時にもと話が進んでいた。

(橋口三枝子)

第85号宮崎支部報より 谷口敏子作

ときめき家族登山 荒武 八起

- 木漏れ日の射す照景樹林の中をゆく
吹き抜ける風の心地良しかな
- 降り積もる落葉の下にヤッコソウ
その出番をひそと待ちをり
- 下山後の冷え(アイス)の美味しさよ
心ひとつに終え「ときめき」

ときめき家族登山 櫻木 勉

- 孫たちと登る思いの叶いたり
(わくわく登山がひやひや登山)
- 家族6人自然の偉大さ困難さ
「ときめき家族登山」に学ぶ

全国支部懇談会・赤川浦岳 橋口三枝子

- 鎌倉の美しきかな奥座敷
ふれあいたつぷり全国支部こん談会
- フルーツの「小諸馬子唄」響きゆく
岡野金次郎碑前祭平場
- 山友の有難きかな畑島さん
不慣れなわれわれの旅案内人に
- 大岩を巻いて登ればその上に
名残惜しげに咲くミツバツツジ

荒平山・丸目岳 服部 岩男

- 急坂を登れば今泉神社古跡
ウツボグサの紫や美(は)し

大幡山 蔵屋 とよ

- 雨霧のなか登りゆく大幡山
樹々の雫が我が髪濡らす
- 濃霧のなかオレンジ色のヤマツツジ
鮮やかな色の揺がりてくる

蓮ヶ池史跡公園 栗林 忠信

- この地域に横穴を掘りて埋葬せしとふ
遙かなる人々の思いを偲ぶ
- いつの時代のものは知らず原っぱの
五輪の石塔あまた鎮座す

巢之浦川大滝 弓削 達雄

- 巢之浦川対岸に見える小さき滝
ふたつ並んで夫婦滝見ゆ
- 杖をつき転ばぬように遅れぬように
高齢のわれの樂き山行

双石山登山口植栽樹木下草除去作業 多田周廣

- 双石山はわが心の山せめてもと
老体に汗し植栽・除草す

3年ぶりの南アルプス 武田 芳雄

- オベリスクと呼ばれていた地蔵仏岩
ハイマツの緑とのコントラスや美(は)し
- コロナ禍を待ちし計画の南アルプス
熊にも逢わず無事に終えたり



日向伊東家48城 探査 (1)

多田 周廣

①門川城(門川町)

門川町五十鈴川左岸、五十鈴小学校東側の丘に看板が設置され、それと判るが県指定天然記念物「門川のウズギモクセイ」とその木の周辺に約110基の五輪塔と約十基の板碑が残っているとされるがそれらは今

は藪(ほとんど大杉)の中で一切判断できない。惜しいことである。この城は伊東家48城のなかで一番県北に位置する城であったが一時期、曾我兄弟によって仇討された工藤の孫が城主であったと言われる。



門川城跡

②日知屋城(日向市)

日向塩見川河口北岸、伊勢ヶ浜にあり海岸線を見下ろす風光明媚な地にある。北に細島、南に塩見川河口が近接して海上・河川交通を迎える適地であった。特に細島は深い入り江を持つ屈指の良港であり、城跡

は、現在でも自治体の管理もよく、立派な市民の憩いの場となっている。散策に、特に中高年の散歩には素晴らしい環境の城跡である。



日知屋城跡地から見下ろす伊勢ヶ浜

新人です どうぞよろしく!

柏田 英子



土手などを散歩しながらさてこれから何で健康維持をと思って居た頃、橋口さんの新聞記事が目にとまりました。続けていた週2回の運動を中止し不安はありましたが巢之浦川大滝に参加しました。久しぶりに履いた登山靴の底が取れ最初から迷惑をかけてしまいましたが山歩きの楽しさを味わうことができ嬉しく思いました。定例会もお誘いを頂き兒玉さんと参加しました。自分のペースで低山を楽しめばと軽い気持ちで参加した私には少し無理かなと思いましたが助言も頂き、いずれくるであろう老化現象も先送りにして今を未来を楽しみながら出来ることをやって行こうと思っています。皆様どうぞよろしくお願い致します。

兒玉 暁子



兒玉暁子と申します。今年度9月に入会申込を致しました。“地球上に住む動植物が、元気に生きていける環境を未来へ送る”が子ども達と共に森で遊ぶ・山を愛する・環境を保護する等の活動を続けている私の理念です。どうぞよろしくお願い申し上げます。何か役に立てることがあるかもしれないと思っています。

初登山は小学5年生の林間学校:高千穂峰の馬の瀬越え。山肌を流れるひんやりとした山水の味、頬を伝う心地よい風以外は、“苦しかった、もう二度と山には登らない”と心に決めた。夕刻近く下山途中の森で聞いた”ヒグラシのカナカナ“が今でも聞こえてくる。爽やかだったが、どこか寂しげな心に響く声だった。

宮崎の自然 ツチビノキ(66)

石井久夫

宮崎県北部大崩山系祝子川の落水滝側のうす暗い山中(標高880m)にツチビノキの小さな群落がある。

高さ1m前後で葉は大きく7~8月頃に小頭状花序をつける。花は白~淡紅色ジンチョウゲ科の落葉低木で幹に多くの葉跡がある。葉は互生枝先に集まり長さ5~15cm巾2~7cm倒卵形か倒卵状長楕円形をしている。質はうすく下面は特に白色を帯びホウノキの葉を思わせる。花は6月頃に茎の頃に10個内側に集まって咲きジンチョウゲの花に似ているが花の裂片は先がとがる。はじめ赤味が強く後にうすれて白っぽくなる。

ガンピ属は日本特産でとくに花粉の外膜は日本産の他の属にはみられない細かい網状模様がある。県北部の大崩山の山中にだけ群生しうす暗い山林の中に小さな群落をつくっている。

1936年8月北川町祝子川からえのき峠や鬼の目山(標高1491m)に向かう途中の落水の滝上方で発見されて基準標本になった。後に鬼の目山斜面にも生育していることが確認されこの一帯は花崗岩地帯でツチビノキはその溪谷沿いの多湿の林の中に多い。

ツチビノキとは地元祝子川の人達が昔から呼んでいた名で土に生える皮(び)の木、つまりガンピの仲間という意味でガンピ類が乾いた岩場に生えるのに対して本種は堆土に生育することによる。ツチビノキの生因についてはガンピとミツマタの交雑種の説があるが明らかではない。

宮崎県の高校の理科部会が出した「宮崎県の生物」によるとツチビノキはジンチョウゲ科の夏緑性低木で鬼の目山の花崗岩地帯のみに生える県北大崩山系の固有種で宮崎県鬼の目山だけに自生する。香木は佛教の佛前を清めるものとして佛教には欠かせない。佛教の発祥の地インドでは土産物としていろいろの香を売っている。その香木の中に白檀や沈香があるが代表的なものはジンコウでツチビノキはその香木の種類の代表的なものジンチョウゲ科でツチビノキはそのジンチョウゲの一種である。

(メモ)

Paphnimorpha Capitellata Nakai ツチビノキはジンチョウゲ科夏緑性地低木で樹高1m前後葉はうすく5~15cm巾2~7cm6月頃に桃色の花を茎頂につける、鬼の目山の花崗岩にのみ生育している。県北大崩山魂の固有種(稀産種)で宮崎県鬼の目山だけに自生する稀産種で非常にめずらしい。香木は木材質の部分腐らせて樹脂分の材を取得して香木を採集している。



ツチビノキ Paphnimorpha capitellata Nakai



石井久夫先生

これまで書いていただいた「宮崎の自然」は今回で66回となります。高原町にお住いで庭からは霧島の山々が見え、自然、山の大好きな先生には最高のところですよ。後ろに見えるのは高千穂峰。11月で95歳になられた今でも散歩されたりと元気に頑張っているんですよ。

第30回中央公民館まつり

11月16日(土)~17日(日)にかけて中央公民館祭りが開催された。各団体日頃の活動の成果を披露・発表した。勾玉作りや茶道体験、折り紙などの体験コーナー、またゴミリサイクルに関するゲーム、そして血管年齢測定も興味津々で一喜一憂であった。宮崎支部からは1年間の活動を部門ごとにまとめて7枚のパネルに作成し展示した。改めて1年間を振り返る機会でもあった。



[事務局だより]

支部行事予定表(1月～3月)

月 日	行事名	備 考
1月9日(木)	302回定例登山研究会	宮崎市中央公民館
1月12日(日)	定例山行 男鈴山・女鈴山(日南市)	新年登山 清武ナフコ駐車場7時30分出発
1月25日(土)	定例山行 飢肥街道 山仮屋	清武ナフコ駐車場8時出発
2月6日(木)	303回定例登山研究会	宮崎市中央公民館
2月8日(土)	登山道整備	小谷登山道
2月9日(日)	定例山行 宮崎城	宮崎市
2月22日(土)	定例山行 大森岳	綾町
3月1-2日(土・日)	熊本支部交流会	阿蘇野焼き
3月6日(木)	304回定例登山研究会	宮崎市中央公民館
3月8-9日(土・日)	諸塚山山開き	
3月16日(日)	双石山山開き・加江田溪谷開き	丸野駐車場

支部会務報告9月～12月

月 日	事業・行事	開催場所	人員	備 考
9月5日(木)	298回定例登山研究会	宮崎市中央公民館	18	
9月13日(金)	伊東48城巡り	高城・石城(木城町)	4	
9月27日(金)	伊東48城巡り	野尻城	3	
10月3日(木)	299回定例登山研究会	宮崎市中央公民館	18	
10月8日(火)	ウエストン祭高千穂町と打ち合わせ	高千穂町	4	高千穂町役場
10月10日(金)	伊東48城巡り	酒谷城・目井城	2	
10月12日(土)	塩鶴、小谷登山道整備	双石山登山道	11	市山協会主催(総数38名)
10月13日(日)	定例山行 藺傘田池外輪山	薩摩川内市	15	マイクロバス
10月31日(木)	300回定例登山研究会	宮崎市中央公民館	16	ウエストン祭準備のため日程変更
11月3-4日(土・日)	宮崎ウエストン祭	高千穂町	16	記念山行祖母山
11月7日(木)	公民館祭りパネル作成	活動センター	5	
11月8-10日(金土日)	霧立越え古道調査	五ヶ瀬	9	馬見原～五ヶ瀬～松木登山口
11月16-17日(土・日)	公民館祭り	宮崎市中央公民館	18	
11月23日(土)	家一郷山の日(振替)イベント	徳蘇山系	13	市山協会主催(総数52名)
12月5日(木)	301回定例登山研究会	宮崎市中央公民館	16	
12月7日(土)	清掃登山	双石山周辺・双石山	11	総数34名
12月7日(土)	年次晩餐会	東京京王プラザ	2	
12月14日(土)	宮崎支部晩餐会	レストランフランダース	25	
12月21日(土)	86号支部報編集作業	活動センター	6	

投稿のお願い 山行に関するものはもとより、随筆・詩・短歌・俳句など何でも結構ですので皆様の積極的な投稿を何卒よろしくお願ひします。また支部報に関するご意見などありましたら編集委員会へ忌憚なくお寄せください。

カラーページのご案内 配布します本支部報は、経費節減のため白黒印刷ですが、日本山岳会ホームページの宮崎支部を開きますと全カラーで閲覧できますので是非ご覧ください。

編集後記

支部報86号の編集を終えるにあたり、ご寄稿下さいました皆様に心よりお礼申し上げます。本号を皆様をご覧いただくのは鏡開きも終え順調に新しい年に向けスタートされた頃と存じます。令和6年は、山行を含め支部活動など無事に終えることができました。令和7年も安全登山を目標に、牧水の「けふもまたこころの鉦をうち鳴らしうち鳴らしつつあくがれて行く」を心にしながら山・自然を楽しみたいと存じます(荒武)。

公益社団法人 日本山岳会宮崎支部報 82号

発行責任者：日高 研二

編集委員：橋口三枝子(編集委員長)、荒武八起、谷口敏子、多田登美子、栗林淳子、蔵屋とよ

事務局：橋口三枝子

〒880-0930 宮崎市花山手東3丁目11-6

Tel, Fax 0985-51-4179, 090-7450-6406

E-mail: hashimie2713@gmail.com

口座：郵貯銀行 記号 17310 番号16269811

名義人：(社) 日本山岳会宮崎支部